

研究結果

太平洋問題調査会というのは、1925年より1960年まで、アジア太平洋地域において活動を行った世界初の本格的な国際非政府組織である。会員として、各国から学者、政治家、新聞記者等各界で影響力を持つ有名人が個人の資格で参加し、同地域が抱えていた政治、経済、社会などの問題について検討し、その結果を隔年か3年毎に開催される国際会議に持ち寄って討議し、会議後はその成果を各々の国に持ち寄り、政治家への政策提言、国民への啓蒙といった形で影響力を発揮しようとしていた。

「太平洋国際学会（I.P.R）と東北問題：中、日 IPR の論争を中心として」という論文において、第3・4回太平洋会議の焦点となった東北問題（満州問題）をめぐる中・日 I.P.R の論争をとりあげ、その論争の背景、内容（満鉄改組問題、旅順・大連回収問題、鉄道守備隊・警察の撤退問題、朝鮮人問題、日本の満州での経済拡張問題、21ヶ条問題、満州事変問題等）、結果、影響を考察した結果、下記のことを明らかにした。

1920年代に、中国の国権回復運動、日本の中国進出、欧米の東アジアへの復帰という背景の中で、満州問題は世界に注目され、第3・4回太平洋会議において議論された。中日 IPR は、自国の国家利益のために、対立した立場と主張を取り、満州問題について一致出来なかった。しかし、太平洋問題調査会はアジア太平洋地域の非政府組織として、民間外交の場を提供した。この舞台を通じて、満州問題が世界的に更なる注目を引き起こし、同問題をめぐる中・日 IPR の論争は世界輿論や満州問題への認識に影響を及ぼした。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）：

「太平洋問題調査会と満州問題——第3・4回太平洋会議における中日 IPR の論争を中心として——」・王美平・太平洋問題調査会研究所第1回研究例会・2008年5月10日・早稲田大学アジア太平洋研究科7階

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）：

1. 「日本太平洋国際学会剖析」、王美平、『日本研究論集』、2007年10月
2. 「太平洋国際学会と東北問題」、王美平、『近代史研究』2008. 2、2008年3月

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）：